
CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 8
原作:KEY
漫画:みさき樹里
CR COMICS



CLANNAD
オフィシャルコミック
【8】

さいごまで見て下さって
本当にホントに
ありがとう
ございました!!

2009.2

Key・みさき樹里

CR COMICS


CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 8

Contents



第40回
～再生の旅～




出かけることになって
ですので. 旅行
汐とふたりで
P.S
早苗さん…
ハメられた……
は――……
…汐――
おい 悪いが 旅行の話は なしだ
早苗さんも オッサンも 用事ができたんだってよ
りょこう…


…さなえさんは？
だから早苗さんはいないんだ
あっきー…
オッサンもいない
いないんだよふたりとも
な旅行はあきらめろ
…いきたい りょこう…
はあっ
だから行けねぇって言ってるだろっ
ー…
う…


たっ
あ…
――くそ…
――なんて
あいつに
似てるんだろう
…けど
無理だろ…
早苗さんも
オッサンもいないのに
ふたりで旅行
なんて――
早苗さんは
どこに行ったんだろう…？
――まさかな…
ガラッ


ズキンッ
ズキン…
ズキ
ズキン
家中探しても
やっぱり早苗さんは
いなかった


ふう…
本当に出かけたのか早苗さん…
しばらく出かけるってどのくらいだ…？
いや…
でも汐もいるしさすがに夜には——…
え——…ビビらすなビビらすなここは下手に…
あ——…
ちょいちょい
ちょっとこっち来いよ汐
…さなえさん？
おず
おず…
——いや
早苗さんはまだだけどさ
ちっ


…多分 夜には帰ってくるだろう
そしたら今日は無理でも明日には旅行行けるぞ
…さなえさんかえってくる？
うんっ
ふーーっ
たたたっ
ああ いくらなんでも そこまで冗談きつくないだろ
だから 今日は おとなしく ひとりで遊んでな
やれやれ… なんつー休日だ…
こんな事なら来るなんて言わず仕事してりゃよかった
いや… でも
そうなると汐がひとりで家にいる事になったのか…
ハァ。。。
ゆさーゆさー


ゆさ
ゆさっ
——朋也くん
——ん…
はっ。
ねぇ…
——汐か
なんだ?
のそっ
さなえさん…
帰って来たのか!?
ぷるぷる
なんだよ…
じゃあ まだって事だろ わかれよ そんくらい
おなかすいた…
あ…
ドン



なんもなかったから焼きメシだ
いただきます
いただきます
ぱくん
〜〜〜っ
にがい…
苦い？
…このくろいてんてんきらい…
黒い点々？コショウの事か
…コショウが入ってないと焼きメシじゃないからな
そのくらいガマンして食え
…にがい…
好き嫌いするなよ
早苗さんにも言われてんだろ
…さなえさんのごはんがたべたい…
むか…
そうかよ…
じゃあ食うな
うん…


…ごはん…
え!?
じゃん
ほかほか
いただきます
ふりかけね…
はぐ
はぐ
そりゃ俺は楽でいいけどさ…
もし このまま夜になったらさすがにごはんだけじゃマズイよな…
…
頼む…
く…
誰でもいいから早く帰ってきてくれ…
はぐ はぐ
?



──結局
夜になっても早苗さんたちは帰ってこなかった
俺と汐は近くのスーパーで弁当を買って夕飯を済ませた


もう夜もふけていた
すー…
―もし
そのまま俺が
帰っていたら
汐はひとりで
留守番する事に
なっていた
今夜はもう
俺と汐のふたり
だけだろう…
まったく
シャレにならない



ゴロ
はぁ…
——明日こそ
早苗さんが
帰ってきますように……
ミーーン
ミーーン…
カラ…
——…
ちょこん


早苗さんが
来るのを待って
店先に立つ
──まるで
親の帰りを待つ
兄妹のようで
なんとも情けなかつた
キャッ
キャッ
ほらほら
そんなに急ぐと
転ぶぞ
もー
早く早くー
ごそ
…なあ
旅行
行きたいか


うん…
いきたい…
なつやすみ
だから…
いきたい…
早苗さんも
オッサンも
いなくてもか?
だって
こないもん
…そうだな
こない
もんな
──じゃあ
行くか…
旅行
ふたりで



うん…！
汐は少しだけ笑った
怖い父親とふたりきりの旅行——
それでも行かないよりはマシなんだきっと
——よし じゃあ急いで準備するぞ
うんっ
たたっ


はやく
はやく
ハァ
ハァ
そんなに急がなくても電車は逃げねぇよ…
ふぅ
なぁ
この旅でお前は何したい？
…？
旅の目的だよ
旅の目的
え——と例えば美味いものを食べるとかきれいな景色を見たいとか…
まぁそういうのだ
うーん…
ぜんぶ
全部!? よくばりだなお前…
うんっ


早苗さんが用意してくれてた券は当日限りだったので急行を乗りついで行く事にした
正直 持ち合わせが少なかったのもある
ザワ
ザワ
しばらくは電車での長い移動になりそうだ――…
ハハハ
ガタン
ガタン
ザワ
ザワ
家族連ればっかだな…
ふぅ
ガタン
ガタッ…


――もしも
渚がいれば
俺の隣には
渚が座っていたんだろう
そしたら俺は…
こいつの
ちゃんとした
親だったろうか
夏休みの思い出の中に
最初からいる事が
できただろうか――…
……
――この旅は俺にとって
辛い旅になりそうだった
パァ



ねえ
ねえ…
ぺし…
ぺし…
ん———…
…あそんで
んあ？
寝ちまってたか…
ガタン…
遊ぶってどうやって…
俺 子供が喜ぶような遊びなんて知らないぞ
ガタン
うーん…
…早苗さんとは普段何して遊んでるんだ？
ゴトン…
さなえさんとはいっしょにほんよむ
そうか…
でも本ないな
う〜〜〜…
オッサンとは？
あっきーとはやきゅう
野球!?


みてみて
ひょい
!?
シャキーン!!
ヤッーー!!
こまだ
モノマネかよっ!?
どーん
おもしろい?
面白くない…
ざんねん…
あの人…
女の子に
なんつーネタ
仕込んでんだよ
しかも
誰に向けての
ネタだよ…!!



なんかして?
モノマネなんかできねぇよ…
…なにもない?
ああ…何もない
ガタン
…外でも見てろよ 俺は寝るから
でも…
眠いんだよ 寝かせてくれ
ガタン
うん…
ザワ
ガタン
ガタン
ザワ
……
ワ
ザワ
ザワ
――ああ くそ うるせえよ…


こらー もう 何してるの～
ママのまねーー
ハハハッ
うまい うまい ソックリだな
うるせえっ!!
ちったあ 周りの事も 考えろっ!!
は…はい すみません…
くそ…
しん…
どかっ
ん…
ガタッ…
ゴトァ…
おい 汐！
汐ーーっ


あの…女の子ならさっきあっちへ走っていきましたよ
え?
そうですか…ありがとうございます
――なんなんだ…?
ガチャ
あの…女の子がこっちに…
ああお父さんですか
女の子はトイレですよ
ドアの開け方がわからなかったみたいで…
カシャン
お父さんが来てくれたならもう大丈夫ですね
あ…ああありがとうございます
ガチャ…
汐…


…では私はこれで
あ はい ありがとうございました
フウ
おい 急にいなくなったら心配するだろーが
トイレに行きたかったなら行くって言えよ
うん…
…なんか お前 目 赤くない？
ううん…
…ふぅん
とりあえず 席戻るか
うん…
ガタン
ガタン
――……
……なあ


さっき俺…
お前の事泣かしたよな…
俺が大声出して怒鳴ったから…だからだよな
…ううん…
どうして？目赤くなってるじゃないか
ウソつかなくていいんだぞ
…ないちゃダメって
誰が？
さなえさん…
マジか？
意外に厳しいなあの人…
でも…
ないてもいいところがあるって…
泣いてもいい所？
どこだよそりゃ


…おトイレ
ガタン
…そりゃ トイレだったら 誰にも気づかれず 泣けるけどさ…
ガタン
…じゃあ いつもトイレで 泣いてんのか？
うん…
外だったら どうすんだ？
…がまん…
だから さつき 入つた事もないような 電車のトイレに 駆け込んだのか…
マジで 言ってるのか？
うん…
でもさ… それってなんか 寂しくねえ？
――…
早苗さんの 教育方針が わからなく なりそうだ


うーん
俺は泣きたい時は泣いていいと思うけどな
大きくなったら我慢しなくちゃいけない事はたくさんあるし
だから今のうちに泣いといた方がいいぞ
な
うん…
わかってるか？本当に…
うん…
…ダメだ…完全に恐がってる…
くそう
汐次降りるぞ
ごそ…
…ついたの？


寄り道だ
見知らぬ駅で降り隣接したデパートに立ち寄った
そこでおもちゃをひとつ買った
それでしばらく退屈しないだろ
うん
…本当にそんなんでよかったのか？


うん
ちょっとかわいい…
ちょっとって…
お前な一番かわいいのを買えばよかっただろ…
ううん
これがいちばん
まぁ…気に入ったならいいけどさ
うんっ
このボタンおしてみて
ん…これか？
なんつー騒音を立てるオモチャなんだよ それはっ
かわいい…
かわいくないわっ!!
がまん…
だから我慢する事ないって言ってるだろ…
ううん…がまん…


はぁ…
…とりあえず
そのボタンは
禁止な
周りの人にも
迷惑かかるだろ
うん…
聞き分けは
いいんだな
お前
目的地へは
まだまだ
かかりそうだ
じゃあ
俺は
寝るからな
おとなしく
遊んでろよ
うん
——そこからは
夢うつつ
ロボットのおもちゃを
手にしながら
流れる風景を
見ている…
そんな汐の姿が
ずっと視界に
入っていた


楽しい旅になっているだろうか…?
一緒に行くのがこんな恐い父親じゃなければ…きっと
初めてのふたりの旅行だっていうのに——…
寂しそうな汐
ひとりだけの風景しかなかった

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック



とっぷり…
その日
目的地に着いた頃には
すでに夕方近くになっていた
ふぅ…
かなり
遅れちまったな…
ここは
動物園か…
とりあえず…
宿の方に
電話して…
ブッ
ブッ
はっ
チェックインの
時間より
だいぶ――……


――いや……まてよ……
ドクン
ドクン
俺たちって早苗さんの予定より1日遅れて旅行してるんじゃなかったか…!?
ザザッ
おい急ぐぞ汐っ!
え…
予定が変わったんだ宿に確認とらないと…!
?
?
だから…
悪いが今日の動物園はなしだ
しゅん…
そのかわり明日の花畑にはちゃんと行けるからさ
――…
うん…
――よしじゃあグズグズしてるヒマないぞ
急がねぇと満室になっちまう!
走れ!!汐!
う…うんっ

第41回(だいかい)
~夏(なつ)の日(ひ)の落(お)と)し物(もの)~





宿は満室だった
それからが大変だった
電話帳に載っている宿へ片っぱしから連絡しやっとの事で空き部屋を見つけて
そして宿に着いた時はもう夜だった
すー…
…たく
いい気なモンだよな
ガキの面倒見ながらの旅行か…
こりゃ思っていた以上に辛いぞ
ぐったり
歩くスピードも遅くなるし…
目を離すとふっといなくなってるし…



えーと…
明日は花畑…
それから岬か…
カサ…
岬って何があるんだ…?
――まあ
あと2日の辛抱だ
明日
あと1泊すれば
この旅行も終わる…
そうすれば また
仕事が始まって
俺は余計な事を考えずにすむ
ふあ…
パチッ
…寝るか…
…あ
そうだ
宿代――…
ごそ
明日…朝一で
お金おろしに
行かねえと…
うとうと
…近くに
あるかな…
――まったく…
う…
眠い…
チチチ…
なんて大変なんだ――


ガタン…
ゴトン…
ふぅ…
また長い電車の旅だな…
寝た気がしねえ…
このまま終点までか…
だいたい昼すぎには着くかな――
ん？
さっ
――……
…あ――…終点までどのくらいかかるんだろーな――…
!!


…なんだよ
俺の顔に何か
ついてるか？
わっ
わっ
わっ
…ううん
じゃあなんだよ
言ってみろ
——……
タタン…
まだビビってんのか
お前
もう
こんなとこで
怒鳴ったり
しないって
カタン…
——……
ほんと…？
ああ
なんだ？
言ってみろよ
…じゃあ
ママのこと
おしえて


——え…
ママのこと しりたい
あ…
…早苗さんに聞いてくれよ…
そういうの——
さなえさん おしえてくれなかったの…
パパに きけって…
…それが 父親としての 義務だというのか…
——…


…だとしても——
あのさ…汐
早苗さんに…
パパは教えてくれなかったって…
早苗さんの方から話してほしいって…
そう…言ってくれよ
俺にその話は辛すぎる——…
…そしたら
きっと教えてくれるからさ…
な汐…
うん…
俺は今でも弱いままだ



――しお
汐――
おい 汐
…。
ほら とっとと 行くぞ
――…
どうした やっぱり行くの やめるか？
ううん… …あつい…
はっ
そりゃ 夏だからな 仕方ないだろ
…うん よかった…
え…？
だって…


ここには ひとりきりの少女はいませんから――
ブワッ
――え…
あれは…



みしっ
あ…っ すいません
だ…大丈夫ですか
あ…いえ
……寝てたのか 俺——……
なんか…
——懐かしい夢を見ていた気がする
はっ
キョロキョロ
ご乗車ありがとうございましたー
お忘れものなどありませんようお気をつけください
…俺たちも降りるぞ 汐
…ついたの？
降りる人もほとんどいないような無人駅——…
そこがこの旅の終着駅だった


花畑までは少し距離があった
こっから1kmか…ちょっと歩くからな
うんっ
わくわく
…じゃ出発な
おー一っ
…帽子しっかりかぶれよ暑いんだからさ
汐とふたりその道のりを歩いていった
一お
…あれか花畑って
…すげー広さだな



ん？どうした？
みてみたい…
…仕方ねえなあ
ちょっと足開いてみ
？
そのままそうしてろよ
よっ
ぐんっ
わ…
どうだ──見えたか？



う〜〜っ
すごい…
しばらく このまま 歩いて やるよ
うんっ
汐の体は 驚くほど 軽かった
わーーいっ



こんなの見たことないだろお前
うん
すごいすごい…
えいっ
ぴょん
あ
あんまり遠くまで行くんじゃないぞ――
バテる前に戻ってこいよいいな――っ
うん――っ
わさ
わさ
…たくっ
男みたいなやつ…



カサ…
――この後は
…日が暮れる前に岬か…
…まだ余裕あるしゆっくりして行くか…
………
……あつい……


ハァ〜…
お前な… だから そうなる前に 戻ってこいって 言ったんだよ
う〜〜… ふらふら する…
ほら その木陰ん とこ座って 休んでろ
ジュース 買ってきて やるから
たたた
ビクッ
こら いい加減に しろよ お前
もう充分 遊んだだろ…
おとなしく 座って 待ってろって
なくしたの…
あん?
かってもらった ろぼっと…



――……
…わかった
俺が探してくるから
とりあえずお前は
座って休んでろ
ジュース買ってくるから
ガコン
――なくした
…って
この広い場所で
なくしたって
のか――…？
ど――ん
冗談だろ!?
…あ
ダメだ
やっぱ見つかん
ねぇよ
ハァ…
残念
だったな
…お前さ
花の下とか
細い道とか
入ってったろ？
大人の俺じゃ
探しきれねぇよ



…あのロボット デパートとかに 同じのある だろうからさ
すぅく
帰ったら 早苗さんに 買ってもらえよ
わがまま 言うなよ 予定があんだって 日が暮れる前に 動きたいんだよ
ぷるぷる
ん〜〜〜…
…あれがいい
…な
ちょっと だけだから…
……
ガンコだよな お前…
さがしてくる…
ああ…
——何してるんだろう 俺たちは…



こんな遠い場所まで来て花を見て喜んだのも束の間——…
買ったばかりのロボットのおもちゃをなくして…
必死に探しても見つからない…
汐、見つかったか
ううん…
——結局日はもう暮れてしまった
なあ もう あきらめろって
こんだけ探してもないんだからさ
ううん
ぜったいにみつける
この旅はなんだったんだ…
…いい加減にしねーと置いていくぞ
うん…
失ってばかりだ



時間の無駄だった——
フワッ
風が——……
…汐
あと30分だけ待ってやる
それまでに見つけろ
…うん……
…まだ間に合うかもしれない
ザッ
潮の匂いがした


せっかく
ここまで来たんだ
ゴールに何があるのか…
確かめてからでも
遅くない
――早苗さんが
何を考えていたのかを――…
ザザ…
…！…
!!ッ
！


お待ちしていましたよ
岡崎朋也さんですね
え…
古河早苗さんという方から連絡を頂きました
早苗さんから…？
そうです
あ
えっと…
でも俺はここに来るように言われただけで
…失礼ですがあなたが誰なのかも知らないんです
わたしですか
岡崎史乃
…と申します
――え…
ザン…


あなたの父親の母です
──早苗さん
あなたはいったいどんな経験を俺にさせたいんですか…


――…大きくなりましたね
…会った事あったんですか？
ええ…あなたが小さい時…
覚えてないのも無理ないですけどね
――…！
…あの馬鹿はまだ罪滅しの途中ですか？
…いえ
もう実家に戻ってきてると思います
そうですか…大変な思いをしたでしょう
いえ…お互い…距離をおいていましたから
…わかりますよ直幸の事ですから
直幸――…父の名前だ
――昔はあんなに馬鹿な子ではなかったんですよ


…若い結婚でした
ふたりとも学生だったから誰もが反対しましたよ
でも直幸は高校中退してまで働いて…敦子さんの為に頑張った
小さなアパートでふたり暮らしを始めて…
収入も少ない中やりくりして…
何を好んで苦労してるんだろうって周りは不思議そうに見ていましたよ
でも…直幸はそれで幸せでした
自分の力だけで愛する人を守って生きていく——…
それだけであの子は幸せだったんですよ
やがて敦子さんは直幸との子を宿し——
ささやかな祝福の中で——朋也さん
あなたが生まれたんです
——ああ…


ふたりきりの生活は家族の生活になりました
直幸は今まで以上に頑張って働き――…
そしてずっと笑っていました
――もうやめてくれ…
今更…あの人の話なんて――
――だって…それじゃあ まるで…
でも…
その幸せも長く続くことはなかったんです
…敦子さんが事故にあって
そのまま他界してしまったから
ザザ…
ザ…
まるで 同じじゃないか… 俺と――…

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック


ザザ…
敦子さんを失くしてしまって…
ザ…
直幸にとってそれは
立ち直れないほど悲しい出来事でした
あの子は家族の幸せを守って生きてきたからです
——けれど
まだ絶望するわけにいかなかった…


朋也さん
まだ幼いあなたが残されていたからです
第42回
〜追憶〜


……
俺が…？
はい
――覚えていますか？
あの日…
この場所で…
――朋也だけは
こいつだけは
自分の手で
育て上げるから


——そうして
あなたと直幸はここから手を繋いで歩いていったのですよ
そこから始まった日々が——
あの子の人生の中で一番頑張った時間なのです
仕事と子育ての両立——…
融通がきかなくて
何度も仕事をクビになっては転々として——…
それでもあなただけは手放さずにいました
なけなしのお金でおもちゃを買って
お菓子を食べさせて…



自分の運や成功する機会
ただいま朋也
おかえりなさい
すべてを犠牲にしてあなたを育て上げたのですよ
…時には厳しく乱暴だったかもしれません
でもすべてはあなたを無事に育て上げる為──
そして…あなたが手のかからない子に成長した時──
何もかも失って…
そこからはもう堕落していくしかなかったのです
あの子はすべてを失っていました
ザァ…
──…
朋也さん



直幸は駄目な父親だったと思いますか？
――…
いえ…
知らなかった
そんな思いであの人が俺を育ててきたなんて知らなかった
俺の方が…
よっぽど駄目な人間です
――ああ
汐…
俺は…
あの日の父親と同じ場所に立ってるんです
全く同じなんです


今の俺は…弱くて情けない人間です
なのに…っ
泣きそうだった
泣き出したかった
いえ あの子も弱くて情けない人間でしたよ
我がままばかりで乱暴で…
駄目な人間です
…でも それでもひとつだけ
私は今でも誇りに思いたいのです
父親としては立派だったと
…そう
朋也さんも思ってくれますか


――――…
――はい
…ありがとうございます
朋也さん
…どうかあの子に伝えてもらえますか？
え…？
ガサ
ガサ
ガサ


おーーい…
汐ーーーっ
ガサ
ガサ
ーーあ…
ドクン
…おもちゃ見つかったか？
ううん…
みつからなかった…
仕方ないなまた新しいの買ってやるからさーー…
そっか…
……だから


ん？
…あれは ひとつだけ だから…
ひとつだけって 何がだよ
デパートで たくさん 売ってたろ？
…えらんで かってくれた ものだから
はじめて パパに
——朋也さん
汐は 寂しがってるんですよ
ずっとお父さんが側にいなくて


ドクン…
ーー許されるんだろうか
そ。。。
じゃあ…
おまえには大切なものだったんだな
ドクン
ーー今更…
こんな父親面なんて
…うん


…それでも まだ
俺に取り戻すチャンスをくれるのか――…
…汐 寂しかったか
……うん
俺なんかと… 旅行できて 楽しかったか
ずっと… ごめんな 長い間 ひとりにして…
うん
な…汐
これからは ずっと側にいて いいかな


ずっと…駄目な父親だったけどさ
これからは汐の為に頑張るから
だから…側にいてもいいか…?
…うん
いてほしい
…そっか
…でもきょうは…
たいせつなものなくしたから…
かなしい…
パパもうがまんしなくていい…?
何を?
…なくの
さなえさんが
ないていいのは…おトイレか――


パパのむねだって


——5年間
…ずっと こいつは トイレの中でひとり 泣いていたんだ
早苗さんは… こうやって 泣かせてやるのは 俺の役目だって——……
…なんて
うわぁーーん
なんて酷い父親だったんだろう 俺は…
汐…ごめんな
もう 我慢 しなくていい
わーーん


泣きたいなら…
思いっきり泣いていいんだ
俺にしか守れないものがここにあった
わあああああ
かけがえのない思い…
一生 それを抱いて生きていく
汐と共に
プルルルル
ドアが閉まります


ガタン
…なぁ汐
ママの話聞きたいか
うん
コク
そっか… よし じゃあ こっち来い
うん
——じゃあ…
そうだな… 何から話そうか
…ママはさ
いつだって泣いてるような奴だった


出会った時も自信がなくて弱くて…
坂の下で立ちつくしてた
あいつ そこでさ なんて言ったと思う？
〝あんぱんっ〟
——って
あいつのクセだった
ぷ…
楽しみなものを声に出して一歩踏み出す勇気を持つって
かわいいクセだろ謙虚でさ
でも俺と付き合い始めてからは
そのクセもなくなっていった…
あいつは俺を支えにしてくれて
俺もあいつに支えられた
ふたりで支え合って学校生活を送り始めたんだ



ふたりで 潰れた 演劇部を 立て直そうとした
演劇って わかるか? お芝居だな
あいつ 演劇なんて 見た事もねぇのに やりたいって 言うんだぜ?
はは… おかしいだろ
最初はトラブル 続きでさ 部員の数だって 足りなかったんだ
それが いつの間にか 大人数になって… 部員じゃない奴 ばっかだったけど ママは喜んでた
あいつは みんなで ひとつの事を 頑張るのが 大好きだったから
——学園祭では 劇だってやった
ママは すごい人数の前で お芝居やったんだ
本番前に 問題があって… あいつ 舞台で 大泣きしちまったけどさ
でも 最後まで ちゃんと やりきった



最後の最後にだんご大家族なんて歌って見てる奴らコケさせたけどな
…だんご？
ママの大好きな歌だよ
だんごだんごって歌
―あいつはそうして俺やみんなの夢を叶えてくれた…
みんなの…いい思い出だ…
でも…その後あいつ体調崩してさ長く学校を休む事になったんだ
俺だけが卒業して…あいつはまた学校でひとりきりになってしまって…
俺たちはふたりで暮らすようになって
お互い1年も頑張れば強くなれるって励まし合って…
それでもあいつは頑張る事を選んだ
長い時間かかったけど最後にはちゃんと学校も卒業した
―ああ


…それからは
ふたりで家庭を守るように生きてた
そのうち…お前ができて…
朋也くん
ママは身体が弱かったけど…
母親の強さでおまえを産んだんだ
出会った時にはあんなに弱かったあいつが…最後には強く生きた
汐 お前はそんなママの子供なんだぞ
今…痛いほどに思い出している
俺はあいつが好きだった
本当に好きだった
誰でもない渚が好きだった


あの控え目な渚が好きだった
笑顔がかわいい渚が好きだった
たまに意地になる渚が好きだった
そして…いつだって側にいてくれた渚が好きだった
わたしひとりにしたら駄目です
なんでも一緒がいいです
ずっと一緒です…えへへ
渚――っ
聞いてくれ! 凄くいい話なんだ
落ち着いてください わたしはどこにも行かないです
ずっと朋也くんの側にいます
朋也くんっ
――辛かったですか…?
うん…


ならすがってください
わたしは今朋也くんの為にここにいるんです
ずっと側にいます
どんな時もいつまでもです
——なのに…
どうして お前が先にいなくなってしまったんだよ…
どうして…
今…お前は隣りにいないんだよ…
ポロッ…
渚ぁ…



ずっと一緒にいたかったのに
はぁ…っ
いつまでも側にいてくれるって言ってたのに
ぐすっ
どうして俺をひとりにしていったんだよ…
ぐすっ
—あ…
変なとこ見せちまったなはは…
ずっと…
泣いてなかったってのにさ…
ぐす
がむしゃらに生きてきたのに…
—パパ
ああ…もう俺は受け入れてしまったんだ
あの日から5年がすぎて…
そして今俺の隣りには渚がいない
その現実を
パパ…
おトイレ…
あ…ああ


ついて行くか？
だいじょうぶっ
——…
——しっかりしないとな…
もう 現実から目をそむけたりしない
でないと汐が取り残されてしまう——…
前を見据えて生きるんだ
てへ
汐…
ちゃんとひとりでできたか？
うんっ
そっか
えらいな汐は
くしゃっ
——うんっ
こいつとふたりで


ただいまー
おかえりなさい ふたりともっ
長旅は疲れたでしょう?
汐 楽しかったですか?
うん
早苗さん…
すみませんでした 朋也さん 急に用事が入って行けなくなってしまって…
本当っすよ 早苗さん
俺 せっかく早苗さんと旅行に行けると思って楽しみにしてたんすから…
はぁぁぁ
今度デートしてくださいね
はいはい この埋め合わせはいつか必ずしますね
あ
それから汐ですけど
はい?



──これからはこいつ
俺と一緒にアパートで暮らしますんで
はいっ
トン
トン
トッ…


持って行きますか それ
早苗さん…
…ええ
あいつの思い出ですから…
進み出した時間は――…
胸の痛みは遠い昔の匂いのせいだろうか――
…本当すみませんでした
長い間汐の事――…
はい？
俺が今こうしているのも早苗さんが色々考えてくれたからです
いえ私は何も…
あいつ…本当にいい子に育ってました
全部早苗さんとオッサンのおかげです
これからは俺の手で渚みたいな思いやりがあって強い子に育てます
どうすればいいだろう
何か…なんでも俺にできる事ならなんだってします
この人たちにどうすれば返せるだろう？
え…？
一生かけて恩返ししたいっす
それじゃあ
幸せになってください


ああ…
この人たちは
いつだってそうだ
家族の幸せを願い
家族の幸せと共に
幸せになれる人なんだ
オッサンも…
渚もきっと
同じ事を
言うだろう
ーーははっ
どうか
しましたか？
いや…
俺も仲間に
なれるだろうか？
人を幸せにして
共に幸せになれる
家族の仲間に
幸せにしたい
小さな家族と共に
本当ーー
かなわないっすよ
早苗さんには
ガタッ
アッキーー
よう
久しぶりじゃねーか
小僧ーーー…
え…



てめえ…何早苗にピンク色出してやがる…!!
意味わかんねーよっ
久々に会ってそれかよ!
なんだ
死んだ魚みてえな目だった奴が復活してるじゃねーか
!
そうか…
そういう事なら話がはええ…
早苗ーっ酒だ!
今夜は飲むぞ!
はいっ準備してきますねっ
また結局そうなるのかよっ!?
その日は古河家に泊まった
俺とオッサンは飲んで大声で騒いで…
楽しい夜だった


……!!
……
―――ん……
……!
話し声―――……?
…おめえも人の事言えねえだろ早苗
何がです…?
おめえだってあの日から泣いてねえ
だから もう 泣け
わたしは…やる事がありましたから…
終わったな…それも
はい…
5年間か…
長かったなご苦労さん
いえ…
私たちは家族ですから…
そうだな…おまえはよくやった
今度はお前が泣く番だ


どうしようもなくなっても俺が助ける
泣きやむまで側にいる
だから泣け
…う
うぁ…
ぐすっ
――その日
俺は初めて早苗さんの弱さを知った
子供のように泣く早苗さん
それを何も言わず見守るオッサン…
そのふたりに俺は一生の家族でいると誓った

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック



第43回
～7年間の家出～


チチチ…
チュン
チュン
むく…
ふあ…
ああ…
まるで天使だ…
親バカ
――…
ありがとうございましたー


ガチャッ
おはようございます 早苗さん
おはようございます 朋也さん 早いですね せっかくですし もう少しゆっくりしててください
あ…いえ その
ゴクッ
ちょっと… 早苗さんにお願いしたい事があって…
はい？ なんでしょうか
その… 今日はどうしてもやらないといけない事があって…
それで 今日一日 汐をあずかっててほしいんです
あっさり
構いませんよ そんな事
…やらないといけない事は お父さんの件ですね？
――はい



──朋也さん
あの子に伝えてもらえますか…
──これは
これまでの俺のけじめですから…
朋也さん…
ガチャ…
パパ…?
汐!
おはよう どうした汐?
パパ…
汐…
じーん
どこかいくの…?
え…
汐 今日はパパ用事があるんですよ


ようじ…
ええ どうしても やらないといけない事で 今日は一緒に いられないけど…
でも用事が済んだら ちゃんと汐を 迎えに来て くれますからね
…ほんと?
ああ… 絶対だ
それまで 我慢 できるか?
…うん
よし いい子だ
早苗さん すいません… また頼っちゃって…
いいえ 家族なんですから 当たり前ですよっ
いってらっしゃい
——ああ


俺は本当の意味で汐と家族になりたい
——だから今
ザッ
ザッ
ザッ
俺は7年ぶりに実家に帰る
…変わってないな
——あの日から7年…
長い
長い家出だった


ガラガラ…
ただいま
スタ
スタ
父さん
…ああ…
朋也くん…


…ただいま
ああ…
おかえり…
ずっと家にいたのか?
うん…
…せっかくの夏休みだってのにな
ああ…
そうだね…
俺はこの休みに旅行に行ってきたよ
ほう…旅行…
ずっと北の地…
そこであんたの母親と会ってきた
——へえ…


――いろんな話を聞いてきたよ
…大変だったんだなって思った
――この人はちゃんと聞いているのだろうか…
俺の話している事は伝わっているだろうか――…
…なぁ
もう…疲れただろ?
…もう休んでもいいんじゃないかな…
――父さん
うん…?
あの子にどうか伝えてもらえますか――


田舎に…戻ったらどうかな…
覚えてるか？あの場所…
あの岬であんたの母さんが待ってる
あんたが昔…小さかった俺を連れて自分の手で育てるって言った
あの場所だよ
—…おお…
…田舎に戻ってさ母親と一緒にのんびり暮らしてさ…
そういうのがいいんじゃないかな…
—そう思うよ俺は
俺の為に自分の生活を犠牲にしてきたなら


もう いいんじゃないか――…
…もう終えたのだろうか
え…
――俺はもう
やり終えたのだろうか…
…な なに言ってんだよ
あんた俺をここまで育て上げてくれたんだろ…
男手ひとつで…
自分の人生だって無駄にしてさ…!


もう…
じゅうぶん頑張ったよ…!!
そうか…
いつの間にかやり終えていたのか——……
それは…
良かった——……
——その夜
俺は久しぶりに実家で過ごした
俺の作った晩飯を一緒に食べ
風呂だって一緒に入った



背中 流してやろうか？
ザザー…
ああ…
なら頼むよ…
ザバッ
ザー…
ゴシゴシ
小さくなったな…
小さくなった背中を見つめながら無心でこすった
チチチ
カラララ…
準備…できたか


ああ…
その子は…？
あんたの孫だよ
——ああ…
あの時の子か…
大きくなったな…
一度だけ…
汐と親父が顔を合わせた事がある
あれはそう——……
とても悲しい日だった
なで…



…よし
それじゃあ行くよ
あ……ああ……
——いつ以来だろう


親父のこんな温かな笑みを見るのは――…
親父…
健康に気をつけろよ…
ああ…
愛する人をなくして――
酒…飲みすぎるなよ…
タバコも吸いすぎるなよ…
ああ…
それでも残された俺の為に頑張り続けて…
…長生きしてくれよ
必ず…
恩返しに行くから…!!
この人の人生は幸せだったんだろうか



こんな…
孝行もしてやれない
息子の為に――……
っ
うっ…っ
どうした
朋也…
なんで
泣いてる…
この人を 送り出して
やらないといけないのに…
もう 俺の為に
頑張らなくても
いいんだ…って
何もかも 俺の為に
犠牲にした日々が
終えられるように――……
…パパ
くいっ
ごしごしっ
強い息子として


…今まで ありがとう
父さん
元気で…
ああ…
朋也も 元気で
じゃあ いくよ
ああ
…もう 子供じゃない
これからは俺が 父親の立場なんだ


男手ひとつで育て上げた父の背を
俺と汐は見えなくなるまで見送った
これからの生活もこれまで通りアパートで続ける事にした
あの家は元々借家だった事もあり家具もほとんど売り払って滞納していた家賃にあてた
…それでも少しの借金が残った
それは俺が地道に働いて返していく


親父とふたり暮らしてきた家はもうない
ロクな思い出だってないいがみ合いの日々
けれど もう
それら全てを胸にしまってかけがえない思い出としていこうと思えた
ーそして
ジュウーー!!
よっ
ふう…
汐 おーい
朝飯できたぞ 起きろー


むーー…。。。
おはよう 汐
パパ…おはよー
じーーん
汐との生活が始まった
ほれ 朝ごはんだ
コト
なにこれ…？
初めてか？ フレンチトーストって言うんだぞ
じー
ふれん…とーすと…
食ってみろ 美味いから
はむ…
もぐっ もぐっ
…どうだ？


はれふひぇ
ふおいひい…
そっか
お前口のまわり
ベタベタな
べたーっ
からっ
ほら汐
準備
できたな？
うん
いって
きまーーす
朝食を済ませたら
一緒に家を出て
保育園に向かう
たたっ
こらこら
走ると
コケるぞー
保育園に
汐をあずけたら
午前の任務は完了だ
そして俺は
仕事へと向かう


キャー
ワイワイ
――それじゃよろしくお願いします
はいっ
いい子にしてろよ 汐 また後でな
うん
へえ…あの人が岡崎さん…
私初めて見たわ
今までいったいどうしてたのかしら―
ヒソヒソ
――……
あの――……
初めまして 岡崎 汐の父親です
あの…これからも汐をおたくのお子さんと仲良くさせてくださいね
え…ええ



では 仕事が ありますから これで——
ペこ…
何を言われても 気にしない
汐を放っていたのは 本当の事だから
だから…せめて これからは頑張ろう
胸を張って 父親だと言えるように——……
おーい…!
ともやー…
…ん?
この声…
ともやーっ
朋也っ!
…き
!?
杏!?
やっぱり アンタだったの
久しぶりねー


汐ちゃんが パパと一緒に 来たって言うから もしかして…って
やっぱり 朋也だったんだ
汐が――って…
え? なんで?
え?
ああもう
だってあたし ここで仕事してる んだもん
保・母・さ・ん♡
きゃっ
何よ 失礼ね
汐ちゃんに ある事ない事 吹き込むわよ
――…
…にしても やっと顔 見せたじゃない



こうやって
一緒に来たって事は
いろいろ解決したって
思っていいのよね？
――ん
まぁな
そっか！
頑張りなさいよ
あたしに
できる事なら
協力するからっ
――…！
はっ
あ…べ、別に
変な意味がある
わけじゃないからねっ!?
勘違いしないでよ!?
んなの
わかってるって
サンキューな
ぷ…
くっくっ
前向きになって
見回せば
応援してくれる奴もいた
――っ
それはそれで
失礼ね…


落ち込んでしまえば それまでで
前向きになれば
道は開けて見えてくる――…
そういうもの
なんだろう
じゃ 汐の事
頼んだぞ杏
仕事だ
はいはい
お仕事
いってらっしゃーい
…岡崎
ハイッ!!
少し
落ち着け…
ヤル気になってるのは
わかるが…
そういう時こそ
不注意でミスを
しやすくなる
あ…
俺は岡崎の事を
よく知ってる
つもりだからな
ささいな事で
事故なんか
起こしてほしく
ない
そんな態度に
出てたのか…
は…はいっ
岡崎
時間だぞ
あ…


汐ーーっ
ここだ ここーー
たたたっ
ぱふっ
3時頃に再び保育園へ
…みつけやすかった
あーっ このカッコだからな
送り迎えが済んだらまた仕事へ戻る
夕方まで仕事をしたらようやく帰って夕飯の準備だ
ただいまーー


今日はハンバーグだ
頑張って作ってみたぞ
はんばーぐ…
ふーっ
どんっ
だいすき…
俺に言ってんのか？それともハンバーグにか!?
夕飯を済ませたら後片づけをして汐を風呂に入れて…
そうしてあっという間の一日が終わる



電気消すぞー
うん
カチッ
ねえ パパ…
ん?
ママのうた うたって
いいよ ママの歌な…
汐は渚の好きだった歌を ママのうたと覚え よく歌ってくれとせがんだ
あいつが歌っていたのを 腹の中で 聞いていたの だろうか——…
だったら嬉しい
それが 家族3人で過ごした 思い出になるから——…


すー
…おやすみ
渚……
ずいぶん遠まわりしちまったけどさ…
やっと俺…汐と家族になれたよ
人を幸せにして 共に幸せになる家族の仲間に——……


一日一日が
かけがえのない日々だった
俺と汐は
これまでの空白を埋めるように
思い出をつめ込むようにして
過ごした
まだ
とり戻せるんだって
パパ
そう
信じていた

第44回 ～終わりゆく世界～




うんどうかいのおしらせ
運動会？
日時は来週末
とっ
詳しい事はプリントに載ってるからちゃんと目を通しておいてよね
ほー……
ちなみに父母参加型だから
にひひ
なにぃ…!?
ぐぁ…
マジじゃねーか…
ふっふっふ
今回ばかりはあんたもマジメに走らないとダメだからね～
おま…っ よけーなコトを…
保護者の皆様へ
はっ
じぃ……
ドキーン…
わくわく


…運動会頑張ろうな汐
お——っ
あら——っよかったわね汐ちゃん
パパ ヤル気出してくれたよー
キリッ
ってコラァ!!
見くびるなよ杏! んな事言われずともちゃんとやる気だったわい!
へえ?
たりめーだ
俺は汐の父親だからな
ボソッ
…甲斐性ナシのあいつが ここまで変わるものね…
ぐっ
パパかいしょーなくてもすき
う…汐——!!!
つーかどこで覚えたそんなのっ
ブツ
ブツ
余計なコトばっか言いやがって…
——ったく


しまい しまい!
…パパ
ん？
うんどうかい…
なんだ 大丈夫だって パパ1位とってやるから さ
ほんと？
おうっ
えへへ…
うんどうかい たのしみ…
ま…若い方だし体力あるし
――こうして
あの日から始まった日々は穏やかに続いていた
…よしっ
ふたりで一番とってやろうな!
おーっ



汐の運動会の父母競争あるだろ
あれ出る事になったからな俺
どーーん
な…
なにーーっっ
ほんと？あっきー
ああ…俺の勇姿をしっかりと焼きつけとけよ
つーかアンタ保護者じゃないだろ…
いやーまいったまいった
それがよ町内の奴らから代走頼まれちまってよ…
ったく人望ありすぎるのも考えモンだぜ
あっきーすごいっ
まあなっ
はーっはっはっは
全然まいってねーじゃん…
ぐったり…
キラーン
つーわけでだ



てめぇとは公式な場でやり合う事になるな…！
どーせ若さと体力でなんとかなるとか思ってたんだろうがそうはいくかよっ
ううっ…!?
ゴゴゴゴッ
うう…っ
なぜそれを…!!
ちなみに汐はどっちが勝つと思う？
うーん
あっきー
ぐはぁーっ!!?
でもパパにかってほしい
なるほど…理想と現実の違いって奴だな
う…おうっ!!
パパがんばってっ


——とは
言ったものの…
相手がオッサン
となると
手強いな…
勝てる気しねぇ…
うーん…
——でも……
パパ
まけないでっ
みてみて
パパ
——……
たっ
たっ
たっ
あ
午後
行きますか
芳野さんっ
たっ
たっ
ぜぇ
はぁ
…ああ
というか
なんで休憩中に
汗だくに
なってんだお前
にぎやかで
平和な日々
かけがえの
ない日常
ただいまーっ
いい子に
してたか
汐——
それは



ドクン…
汐——…?
ん…
パパ…
汐っ
大丈夫か!?
——っ
お前…
熱があるじゃないか…っ!!
——それは唐突に終わろうとしていた
汐——…!!
ピピピピッ
38.2℃


……
高い熱が――……
……パパ
汐… 起きたのか
きっと疲れが出たんだな… しばらく休めば治るさ
うん…
うんどうかい…
――あ…
…大丈夫 週末じゃんか それまでには熱も下がるって
…だから安心してちゃんと休め
うん…
す――…
…あんなに楽しみにしてたんだもんな
きっと疲れが出ただけさ
大丈夫
大丈夫…


けれど
それは
いつだって
唐突で
いつだって
楽しい事の
目前に――…
――…
…
…汐
パパはここに
いるからな――…
翌日…
そのまた翌日に
なっても
汐の熱は
下がらなかった


1日だけ休みをもらって汐の側にいてやる事ができたけど
そう連日仕事は休めない
結局早苗さんの力を借りる事になってしまった
——きっとはりきりすぎたんですよ こいつ
多分風邪かなんかだと思うんですが…
そうですか…
その…すいません
また世話になってしまって…
はい?
だって俺…
これまでもさんざん迷惑かけたっていうのに…
そんな…私は全然迷惑だなんて思ってませんよ
こんな時そばについていてやれない事が無性に腹立たしかった
そして——……


ドン
ドドン…
パパ…はじまったみたい
ああ そうだな
…いかないの？
行かない 今日は日曜日だからな ここにいるよ
…あっきーは
オッサンは走ってるんじゃないかな
アンカーって言ってたし
…かってきて
だから行かないって
今日は1日ずっと汐の側にいるよ
……しょうぶ
みられなくてざんねん…


でも…パパといられてうれしい
――汐は あんなに楽しみにしてた 運動会への参加も 叶わなかった
いつだってそう――… 急にそれは訪れる
そして
あっけなく その時は やって来た
…はい
以前 渚を診てもらった先生にお願いしました
そしたら… 渚と同じだって――…
渚と同じ症状――？
そんな…


ガクッ
そんなのって——…
——これから…
これからやっととり戻していけると思ったのに…
…っ
…朋也さん
おい朋也 汐の父親は誰だ
!?
——…
…俺です
…オッサンは強い…
…なら
おまえはしっかりしていろ
…渚を失ったのは俺だけじゃない


…俺の親父は
立派な父親だった
すべてを
犠牲にして
俺を育てた
──俺は
なれるんだろうか…
そんな強い親に…
──いや…
なれる
ではなく
ならなくては
いけないんだ
ぎゅ…
そうなる為に
あの日から
生き始めたんだから
…本当に
いいんだね?
はい
そうか……


事情があるとはいえ残念だよ
岡崎くんがいなくなるのは
俺は仕事を辞める事にした
早苗さんや周りの人は反対したけど
汐を守る為にはそうしなければダメだと思った
芳野さん…
今までお世話になりました
岡崎か…
ポン
これあずかっといてくれ
…ドライバーじゃないですか
ヨシノ
これなくても大丈夫なんですか？
大丈夫なわけあるかこれがないと仕事にならんだろ
…だからお前のを代わりに貸せ
あ…
いいかこれは借りておく
お前がまたここに帰ってきた時返してやる


娘さんの具合が良くなったらいつでも戻ってこい
芳野さん…
はい…っ
俺たちはこの町に弄ばれているのだろうか…
汐…
何かしてほしい事ないか?
楽しかった日常は終わってしまった
悲しみの中でもがく俺たちはどう映るのだろう
―!…
なんでもいいぞ
欲しい物とか食べたいものとか


……
ん？なんだ？
…りょこう
りょこう…いきたい…
え…
また…あのおはなばたけ…
――…
ああ…
いきたい…
今はムリだけど…元気になったら行こうな…
ああ…
こんな俺たちを笑っているんだろうかこの町は――
そんなのは許せない
汐は俺が守ってみせる


最終回
～町の想い～


――……
パパ…
ん…？
どうした
パパはここに
いるぞ
うん…
――もしかしたら
この町は俺たちの事…いや
人間を憎んでいるのかもしれない…
ハァ…
ハァ…


勝手に木や山を切り崩され変わり続ける町
この場所の緑がまるで渚の分身のように思えてよ…
――あの時渚が助かったのが本当にあの場所のおかげなのだとしたら…
その子供である汐が今苦しんでいるのは町の苦しみなんだろうか…
――…くそ…
…大丈夫だよ汐
ほら汗かいたから着替えような
うん…
ぎゅっ
…パパ
ニコ


ガしっ
おっ…と
大丈夫か？
…無理しなくていいんだぞ 俺が手伝ってやるから
――…
う…
…汐
汐 いいんだよ
今はひとりでできなくたって…
貯金の残高はもうあまり残っていない…
季節は冬――…
あるのはただ汐の長い闘病生活だった
はぁ
はぁ


はあ
汐…!
はあ
汐の熱は昨日からまだ上がり始めていた
しっかり…
汐…!
…苦しいよな… くそ…
見てる事しかできない
パパ…
パパ…
ああ… ここにいるぞっ
…りょこう…
はあ
はあ
──汐…
…そうだな よくなったら また… 行こうな…
ああ…
お前… ききわけは いいのにな…
汐の たったひとつの わがままなのに…


このまま…
起き上がる事も
できなくなるかも
しれないのに――……
――汐…
旅行――…
行こうか
…うん


ガチャ
あ・・・
雪・・・
…どうする 汐
…いく…
わかった
天候まで… 俺たちの不運を あざ笑っているのか――…
雪の中 駅に向かって歩いていく
汐が歩ける所まで
一歩 また一歩
やがて――
どしゃっ


汐…!
ハァ…
ハァ
汐…
もう…一歩だって歩けそうになかった
——…
——結局
俺はまた何もできずに黙って見てる事しかできないのか……
はっ…
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ


ハァ…
…なんだよ
そうだよな
あれから…5年もたったんだ…
はは……
町が変わっていく
……っ
変わらないものは何もなくて
大切なものは何もかも俺の下からなくなってしまう——……



汐…!!
パパ…
もう…
ついたの…?
うし…
また…
おはな
みられる…?
——目が
——…っ
ああ…
もうちょっとだ
汐…!
えへへ…
…パパ…
一緒に…
また
見ような…
だいすき
——神様


だらり
…汐
一体 俺が 何をしたっていうんだ
なあ…
汐 起きてくれよ ——…
ささやかな 幸せを見る事すら 許されないのか…?
うしお…
うっっ!!
こんなのは 酷すぎる——…


……この町は
俺から太切なものを
全て奪っていく――……
それでも人は
生きていかなくては
ならないなら……
もう
たくさんだ
ドサッ…
ザク…


——パパ…
…声が聞こえた
…ありがとう
たくさんの光を集めてくれて




…この光たちは
わたしの思い
ずっと…
待ってたよ
あなたの
こと——
たくさんの
光たちの幸せを
願う心…
——さあ
きかせて…
あなたの
幸せを——


――…
…幸せ？
そう
あなたの幸せ
…そんなの
もう
思い出せない
辛い事ばっかりだ
もう…
このまま
眠りたいんだ
…そう…
悲しい思いを
したんだね
…でも
願っても
いいかな
――…？
わたしが
あなたの幸せを
願うの
…どうして？
いけないかな…？
……いや
別に
いいけど…


幸せ…か……
…本当にささやかでよかったんだ
…言った所でどうにもならないけどさ…
生きる理由も失ってしまった——…
叶うよ
だって ここは
願いの叶う場所だから


見て…
ひとつだけなら
何もできなかったかもしれない——
これはあなたの集めた光


…けれど
こんなにたくさんの思いなら
奇跡だって起こるよ


奇跡…？
——…
あなたは これから… 大切な日に 目覚めるの
そのときは ——どうか 名前を呼んで
…大切な日？
名前って？
全ての 始まりの日…
それがあなたの 答えになるから——
——…
…お前は ここにひとりで いるのか？



…ひとりじゃないよ
──ああ……
昇る
昇っていく……
一体どこまで──
パァ…
わたしはこの町の思いだから



―あんぱんっ
なぎ……
渚…



——出会わなければ
よかったんだろうか…
俺と出会う前の渚は
いつでも自信がなくて…
頼りなくて——…
そのままの
渚でいれば…
出産の時も
危険な事にはならずに
生きて——…
…俺も
辛い思いは
しなくてすんで…
俺が あいつを
変えてしまった
…それでも
…渚あっ!


――はい
…よかったです
声…かけてもらえて
もしかしたら朋也くん…
わたしと出会わなければよかったって思ってるんじゃないかって…
すごく不安でした
わたし…朋也くんと出会えて幸せでした
だからどうか…
もう迷わないでください



朋也くんとわたしが出会えた事…
後悔しないでください
…ああ
…それじゃ
行こうか一緒に
はい
…さよなら
さよなら…
…パパ…っ
そして



こんにちは


フギャアア
フギャアア


おめでとうございます
元気な女の子ですよ
あ…
がんばりましたね 渚！
――渚
はい…
がんばれました… わたし…
しおちゃん…
かわいいです…
渚――…
あ…
手…
…ずっと手握っててくれてて
ありがとうです
あ…
当たり前だろ…


……
俺にはこのくらいしかしてやれないもんな…
そんな事ないです
朋也くんがいたからです…
だから…ありがとうございます
…渚
朋也さん汐を産湯につけてもらえますか
あ はいっ
がんばってください朋也くん
首を支えてあげてくださいね
はい…
そうだ
これは父親として一番最初の仕事だった
そ…っ
パシャ…
パシャ…
産声を上げて生まれた……まっさらな命
フギャアアア
…ああ



——なんて 強いんだろうか こいつは…
こいつが これから 歩んでいく道…
どんな険しくて 長い道でも
きっと 強く生きていく…
そんな気がする
はい
ありがとう ございます 朋也さん
お疲れさまです 朋也くん
外… 見てください
え?
…そりゃ そうか
渚の子供 なんだから
——あ…


――え…?
雪(ゆき)…?
…いや違(ちが)う
…光(ひかり)だ


…もし
町に 人と同じように 意志や心が あるとして
そこに 住む人たちを 幸せにしようって 思っていたら…
こんな奇跡も その町のしわざ かもしれないです
…そう
かも しれないな
でも それは 奇跡とかじゃ ないですよね
町を大好きな人が 町に住み…
人が大好きな 町が 人を愛する
そんな 当たり前の 事なんだと 思います


わたしたちは町を愛し町に育まれているんです
町は大きな家族か？
――…なあ渚
はいっ
町も人も家族です
だんご大家族ですっ
ああ
そうか…
そうだったのか――
だから渚は誰も嫌いにならない
…朋也くんもそろそろ好きになってほしいです
誰のためでも一生懸命になれる
だんご大家族
それは――家族だからだ
…もう十分好きだよ
え…？本当ですかっ



それじゃあ
しおちゃんのために
今から歌って
あげましょう
マジ…？
——俺たちは
きっと
これからも
ずっと
こうして
歌い続けて
いくんだろう
この子と この町のために———



幼
パ
パ
位置(いち)について…
よーい…
パァン
ダッ


汐っ いけーーーっ!!
がんばれ 汐ちゃんーっ
たたっ
よしっ そのままっ
そこだ 汐ちゃんっ
汐ちゃーーーん がんばってーっ
あとちょっとだよ汐ちゃんっ
汐ちゃん
汐ちゃんっ
ただ今の順位 一着 桃組――
おめでとー
ずらーーっ
ん？何 どうしたの 岡崎
一位だよ 汐ちゃん
お前らだよ!!
多すぎるだろ!



む…
まるで邪魔だとでも言いたげだな…
てめえ今なんつった!?
はらはら
あんたじゃない
限度ってモンがあるだろ!
ハイッ
風子は汐ちゃんの勇姿を網膜に焼きつけて帰りますっ
僕はたまたま休みだったからねっ
大勢だと楽しくっていいですよねっ
早苗さん
大丈夫ですよ朋也さん
私が責任持って見てますから
しおちゃんをくれる気にはまだならないですか?
しおちゃんはあげられないです
いや…まあ…お願いします
パパーっ
ぶんぶんっ
パパもあっきーにかって…!
一着おめでとう汐!
たたたっ
あ…
ああっ!
えへへ…うれしい
ピー
父母の参加の方はこちらに集まってくださーい


で…
こうなるわけか…
アンカー対決
あっき〜
朋也くん〜
がんばって〜
おうっ
おう…
恥ずかしい…
たく…まさかこんなにギャラリーが増えるなんてな…
ヒマ人たちめ…
ブツ
ブツ
なんであれだけ集まったか知りたいか
え
なんで?
俺が呼んだ
あんたかー!
はっはっは
オッサン…!!!
まさか声かけた全員来るたぁな
だがおかげで安心したぜ
なにがだよっ
ケンカ?
あらら



なあに
変わってくばっか じゃねえってな
この町が どんだけ 変わっていって
あの場所に でっかい病院が 建っても
変わらねぇ もんがある
──それは
…人の心？
〝思い〟だ


この町と
住人に幸あれ
わあああ…
[CLANNADオフィシャルコミック・完]

『CLANNADオフィシャルコミック』完結によせて

最初にみさきさんの漫画に出会ったのは、CLANNADのアンソロジーだったんですよね。どのお話もクオリティが高くて、筆力があるな! と驚き、ずっと注目していました。智代のお話を描いていてくれたことも好感度高かったです（笑。

で、JIVEさんからCLANNADの漫画化のお話が来まして、さて、作家さんはどなたにお願いしよう…と考え、まず浮かんだのはほかでもないみさきさんです。

しかし、みさきさんはアンソロのほうで「新しい話」を描いてくれています。その手を止めさせて、すでにある「原作の話」を描いてもらうなんてもったいない! 自分は、みさきさんが描いてくれる「新しいCLANNADの話」のほうが読みたかったのです。でも、智代や春原をあれだけ魅力的に描いてくれる作家さんは他にいなかったのです（他の作家さん申し訳ありません! それぞれの魅力はあるのです! ここでは原作に近い魅力、という意味です）。

特にCLANNADの漫画化にあたっては「春原の魅力」が大事だと考えていました。原作をプレイされた方ならわかってもらえるでしょうが、CLANNADは春原抜きにしては語れません。みさきさんの描く春原は非常に可愛く馬鹿で間抜けで、輝いていました。「新しい話」が読めなくなるのは残念だけど、CLANNADを任せられるのはみさきさんしかいない、そう判断したのでした。その判断に間違いはなかったようです。

みさきさん版のCLANNADに対しては、いい感想しか聞かなかったからです。

町ぐるみで攻略キャラが存在する馬鹿みたいに巨大なゲームを、誰もが納得する形で一本のお話にまとめあげるなんて偉業は誰もがなしえなかったことでしょう。お話もそうですが、絵に関しても不思議なことに、いつしか自分が渚を思い浮かべる時は、みさきさんの描かれた渚になっていました。それはコマの中で動いている渚が、いつしか自分が書いた渚以上に「渚らしく」なっていったからでしょう。原作者の贔屓目とか関係なしに、単純にみさきさんの描く渚を愛おしく思うようになりました。あるいは、ただ自分がミーハーなみさきさんのファンだからかもしれません（苦笑。

そして、ようやくこうして長きに渡る連載を終えました。自分はみさきさんにお疲れさまとお礼を言いに、花束を手に、これから福岡に飛ぶつもりです。これが出る頃には飛んだ後でしょう。ちなみに飛行機に乗るのは生まれて初めてです。高所恐怖症です。

あんな鉄の塊が飛ぶなんて信じられません。普通、落ちるでしょう。乗るんですか、あの鉄の塊に俺。リライトのQC出来なかったらすみません。

じゃあ、行ってきます。

というわけで、みさきさん、長い長い連載お疲れさまでした! &素晴らしい漫画にして頂きありがとうございました!!

麻枝准


ました！
当時、それまで仕事での漫画は
8Pや12Pでしか描いたことの
なかった 私の元へ
「連載やりませんか？CLANNADの」
というメールが届いた時…
あまりにもあんまりな話だと思って
新手のサギなのではないかと
疑っていました。
まさかそれが本当で、当初1巻を
目指してたのが8巻まで続いて
しかもちゃんと完結させられたなんて…
当時の自分に教えてやりたいです。
まだ全然、
最終回を描き終えたって
実感ないですが、
この本が出るころには
色々思ってたりするのかなー
2009.2某日. みさき樹里

長い間ご愛読
ありがとうご



ふり返れば、4年は
長かったなぁ…と
しみじみ思うのですが、
描いてる最中は、毎月毎月分を
完成させる事に精一杯でした。
こうやって単行本として形に残ったのを
見て、こんなに描いたのかーと驚いてます。

途中、かなり苦しい時期もありましたが
最後まで描ききることができたのは本当に
支えて下さった皆様のおかげです。
人は一人じゃ生きていけないんだなーと毎月のように実感…。

ラストもたくさんの方に助けて頂いて
本当に嬉しかったです。





ここまで読んで下さった皆様、
手の遅い私を助けてくれたアシの皆様、
いつもご迷惑かけてしまった編集の皆様、
日常生活を支えてくれた周りのみんな…etc.
素敵なコメントを寄せて下さった麻枝さん、Keyスタッフ様、
何度言っても言い足りないくらいですが、本当に、本当に

ありがとうございましたっ!!

＊＊＊Special THANKS＊＊＊＊

まりも、夏野さん、あすらくん、百田くん、轟さん
いっちゃん、とりさん、みなもさん、みつなさん
しん太さん、むぎさん、あらたさん、叶さん、
澪さん、きくりさん、蒼さん、睦月さん、
本当にありがとうございました!!

CR COMICS

クラナド
CLANNAD オフィシャルコミック⑧

●2009年3月15日　初版発行

キー
著者●原作：Key
じゅ　り
漫画：みさき樹里

発行者●石川順恵
発行所●ジャイブ株式会社

〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1
●編集／TEL:03(5367)2744
●営業／TEL:03(5367)2725　FAX:03(5367)2709
●ジャイブHP:http://www.jive-ltd.co.jp

印刷所●図書印刷株式会社
電植製版●株式会社オノ・エーワン

Printed in Japan
ISBN978-4-86176-642-8
初出●月刊COMIC RUSH 2008年11・12月号、2009年1～4月号掲載
デザイン●sio
制作協力●株式会社パルプライド（喜多村・勝村）

ISBN978-4-86176-642-8
C0979 ¥562E

ジャイブ
定価 本体562円 +税



最愛の妻を失い、その面影を残す幼い娘·汐とも距離を置く岡崎朋也。義理の母である早苗の策略によって、汐との旅行に向かう事になった朋也は、旅先での思わぬ出会いの中で家族の絆を知る。長い旅の果てに朋也を待ち受けるものとは……。人と町とのかかわりを描いた物語、ついに完結!